

2025年12月7日 待降節第二主日礼拝説教 「信じて御国に入れ」(マタイ3章1～12節)

○マタイ3章1節のみことば

「そのころ、洗礼者ヨハネが現れて、」

預言者マラキが退いた後、ヨハネの現れまで、凡そ四百年にわたり、みことばを御心どおり語る者は、だれもいなかった。

「主の言葉を聞くことのできぬ飢えと渴きだ。」(アモス8章11節)

☆みことばに飢え渴く民は、神の憐れみに与かれずにいて、すべての人が、闇のうちに生き、命の光を見失っていた。

今日のみことば：マタイ3章2節

「悔い改めよ。天の国は近づいた」

神の定めた時が満ち、救いから遠く離れていた人々に、この世とは違う〈もうひとつの国〉の訪れが、告げ知らされた。

- ①悔い改める：生き方を変えて、よきに向おうとする。
- ②近づいた：(ずっと変わらず) 手の届くところ、目の前にある。
※神の赦しと憐れみ、導きと助けが、いつも、あなたの前にあるので、心を向き直して、恵みのうちに生かされよ。

○マタイ3章7節のみことば

「差し迫った神の怒りを免れると、だれが教えたのか。」

ヨハネは、彼のもとに来た多くの民を受け入れたが、自らの正しさを誇り、己の力で神に近づく人たちは、追い返した。

☞ヨハネの説く悔い改めと赦しの洗礼は、人々の心を来たるべき御方に向け、神の怒りから救われるため与えられた。

「悔い改めにふさわしい実を結べ。」(8節)

問：悔い改めへ向かうために、捨てるべきものとは？

※御国への訪れを信じず、神の憐れみを求めず、己の考えに縛られ、人との関わりだけで生きようとする頑なな心。